

グループ紹介

ストリートダンス BOG



「ストリートダンス BOG」は、小学生から大人までさまざまな年齢層で構成されています。メンバーは約20人です。

毎週金曜日、午後7時から8時30分まで、生涯学習センターきらめきの多目的スタジオで練習しています。ヒップホップというダンススタイルをメインに、ほかのジャンルも幅広く取り入れて、発表会やダンスイベント（茨木フェスティバルなど）を目指して、基本や振り付けなどを学び合っています。

レッスンの前後の時間には、各自で復習したり、理解できなかった動きを質問し合ったりします。サポートをする時間も十分あるので、初心者や中級者のレベルに関係なく自分のレベルに応じて踊ることができ、和気あいあいと練習しています。メンバーは毎週この時間を楽しみに集まって参加しています。

このサークルとは別で、小学生、中学生のみのサークルも、郡コミュニティセンターで活動しています。

（日曜日 午後5時10分～6時40分）

気さくなメンバーばかりなので、興味のある方は一人でも見学や体験にぜひお越しください。



連絡先 渡 綾子 080-1437-6626
メール all-beat@mail.goo.ne.jp

太田俳画クラブ



「太田俳画クラブ」は、昭和57年（1982年）6月に、太田公民館の文化講座から始まりました。その後、自主クラブになり現在に至っています。

メンバーは50歳代から80歳代と幅広く、個性豊かな男性3人を含めた16人で毎日にぎやかに活動しています。月1回、第2月曜日の午前10時から正午までの練習で、いつも“季節”が感じられる画題は歳時記のようです。

メンバーは、指導をお願いしている笹川先生のお手本を見て色の出し方や筆づかいなどを学びます。先生のポイントを押さえた指導は好評で、メンバー全員が熱心に制作しています。

描き上げた作品の発表の場は、地区の文化展くらいですが（一度生涯学習センターきらめきに展示）、それぞれ自分の描いた作品は色紙にしたり、掛け軸に仕上げた玄関や床の間に飾ったり、また、年賀状やはがきに描いてお友達に送るなど日常生活にも取り入れて楽しんでいます。

俳句が作れても作れなくても大丈夫。絵も字も上手下手に関係なく、とにかく“楽しく描こう”をモットーに、仲良く活動しています。

興味のある方は、一度ご覧になっていただき、ぜひ「俳画」を始めてみてください。



連絡先 太田 悦子 622-9645

市民インタビュー

この人に会いたくて



第33回

茨木市民の中からいきいき生活の達人を探し出し、紹介するコーナーです。話から見えてくるその豊かな人生に、あなたもきっと勇気づけられることでしょう。

こより細工の名人
ほりした まさよし
堀下 昌義さん

今から40年ほど前、ふとしたことがきっかけでこより細工を始めることに。以後、数々の作品を制作する。松や梅の盆栽は、新聞紙や広告紙などの身近なもので作ったとは思えないほど、見事な作りに仕上げられている。

こより細工を始めたきっかけは何だったのですか。

昭和39年11月のことです。岡山からの汽車での仕事帰り、食堂車の席に座りテーブルに置いてある紙ナプキンでこよりを作っていると、ふと、飾ってある一輪の菊が目に入りました。「この花、こよりで作ることができないかな」と思い、試しにと、こよりの先を花びらに似せて作りそれらを寄せ集めると、ちゃんとした菊の花が出来上がったのです。いろいろなものを作り始めたのはそれからです。翌年4月の娘の結婚式では、美容師さんが忘れた髪飾りの代わりに、私がこよりで菊の花を作り、娘の髪に飾りました。

あの立派な盆栽の材料は何ですか。

ご覧になった皆さんは、「立派な盆栽ですね」と言ってくれます。でも材料費はどの作品も千円もかかっていないんです。紙ナプキンや新聞紙、包装紙、広告紙、麻のひも、糊、接着剤、水彩絵の具など身近なものを利用して作っています。

作り方を簡単に説明しますと、まず、色を付けたこよりで花や葉を作ります。おしべ・めしべもそれらに合わせて作ります。次に、幹や枝を作ります。細い棒状（鉛筆くらい）にした古新聞を何本か集めてひもで縛ります。それを枝ぶりに合わせて曲げていき、形を整えます。そこに広告紙を焼いて出来た灰と糊、細かく切った新聞紙を合わせて練ったものを貼り付けます。広告紙の色合いで灰の色が違ってくるので、幹や枝に微妙な色合いを出すことができます。最後に、先に作っておいた花や葉を一つずつ付けていきます。

制作での苦労はありますか。また、心掛けていることは。

幹や枝の色と質感を出すのには苦労しました。何度も失敗してやっと納得するものができるのに3年かかりました。

私の作品はすべて紙で出来ていて、生きてはいませんが、そこに命を吹き込むくらいの気持ちで作っています。どうしたら木や花が生き生きとして見えるのかをいつも考えています。

こより細工を作っていて、私が心掛けていることは、素直な気持ちを持つということです。「いいものを作ってやろう」とか「人から褒めてもらおう」などと思って作るとあまりいい出来映えにはなりません。無心で作ることが大切だと思います。

作品を通じて伝えたいことはありますか。

今、私は85歳です。指先を使うこより細工ができるのは、せいぜいあと3・4年かななど思うことがあります。最近視力も弱くなりました。今のうちに、こより細工を誰かに託したいのです。作品をご覧になった方々の中で誰かが、ただ「きれい」と思うだけでなく、「どうやって作ってるんだろう」「私も作ってみたい」と思ってほしいのです。そういう方に、作り方のすべてを伝えて、こより細工が絶えないようにしたいのです。それが今、私の一番の願いです。



こよりを作る堀下さん



堀下さんの作品